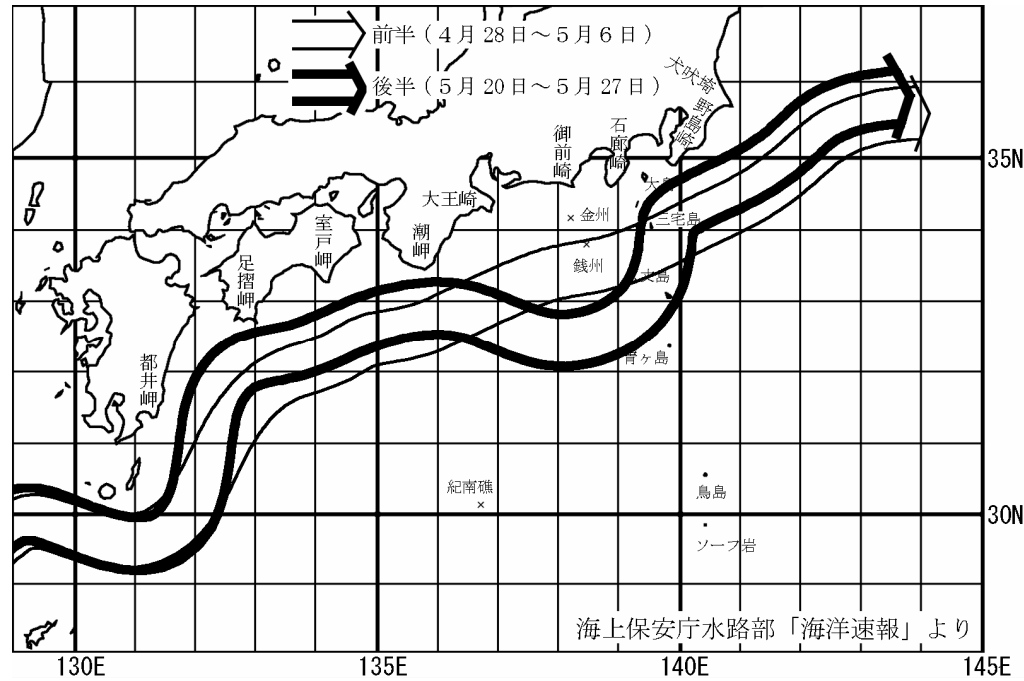


漁海況月報

平成 15 年 5 月 1 日

No. 5 ~5月31日

静岡県水産試験場
(電話 054-627-4815)
静岡県水産試験場伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



[黒潮流路]

5月上旬、黒潮は遠州灘沖の33°~33°50'N付近を東北東に流れ、伊豆半島西岸には暖水が波及した。中旬には遠州灘沖に黒潮の内側反流が見られ、その沖合には冷水渦が現れ、黒潮はN型基調ではあるもののB型に類似した流路となった。

下旬に入り、遠州灘沖の冷水渦は伊豆諸島付近にまで広がり、黒潮はこれを迂回するように蛇行しN型基調からC型へと移行した。

[県下沿岸域]

県下の定地水温は、伊豆東岸では17~21℃、伊豆西岸では19~21℃、駿河湾東岸では17~20℃で経過し、平年よりも高めであった。伊豆東岸は5月中旬から昇温傾向が著しく、平年に比べ2~3℃高めとなった。

[竿釣近海カツオ]

県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は1,410トンで前年同期の2.3倍であった。魚価は275円/kgで、前年同期を大きく下回った。

御前崎市場での調査によれば、5月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

上旬：32°50'~34°10'N、136°40'~140°00'E(表面水温20.2~23.8℃)の熊野灘から伊豆諸島域に漁場が形成され、小(体長45cmモード)、極小、中、大カツオを漁獲した。

中旬：34°N、138°E(表面水温21~22℃)付近の御前崎沖で漁場が形成され、小(体長44cmモード)、極小カツオを漁獲した。

下旬：34°20'N、138°40'E(表面水温21.1~21.8℃)付近の石廊崎沖で漁場が形成され、小(体長46cmモード)、極小、中、大カツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
15年5月上旬	409	53	7.7	255
中旬	556	97	5.7	284
下旬	445	82	5.4	281
15年5月計	1,410	232	6.1	275
14年5月計	605	118	5.1	505
13年5月計	496	65	7.6	369

[定置網]

平成15年5月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は722トンであった。1漁場当たり水揚量90.3トンは、前年45.5トンの2倍、平年値(昭和57~平成14年平均値)49.0トンの1.8倍であった。

魚種別にみると、マルソウダ210トン(前年の9.6倍、平年の21倍)、サバ類199トン(前年の4.1倍、平年の2.9倍)、マアジ168トン(前年の1.5倍、平年の100%)、カタクチイワシ57.7トン(前年の60%、平年の1.9倍)、シラ16.2トン(前年の3.3倍、平年の5.3倍)の順に多かった。

2003年5月

定地水温の旬平均値()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	17.1	17.3	17.4	19.1	19.6	17.8	18.0
	0.1	0.7	0.5	1.3	1.4	0.3	0.8
中 旬	17.9	20.0	19.4	20.3	20.0	19.1	18.4
	0.1	2.1	1.8	1.7	1.0	0.8	0.3
下 旬	20.2	21.7	21.6	21.3	21.2	20.3	19.8
	1.4	3.5	3.2	1.9	1.7	1.0	0.7
月平均	18.5	19.7	19.6	20.3	20.3	19.2	18.8
	0.5	2.2	1.9	1.6	1.4	0.8	0.6

マルソウダは北川と川奈を中心に中旬以降大量に入網し、両漁場を合わせるとマルソウダ全漁獲量の6割を占め、尾叉長の中心は30～35cmであった。また、マルソウダの漁獲量としては昭和57年以降で最も多かった。サバ類はゴマサバを主体に赤石で最も多く入網し、尾叉長の中心は23～37cmであった。マアジは川奈及び伊豆山を中心に入網し、尾叉長の中心は15～23cmであった。

漁場別水揚量は、マルソウダとマアジの漁獲が多かった川奈(151トン)、サバ類の漁獲が多かった赤石(138トン)、マルソウダの漁獲が多かった北川(132トン)の順であった。

[サクラエビ船曳網]

5月は10日間の操業で759トンの水揚量となり、昨年5月を上回った。漁場は由比～田子の浦、富士川～沼津沖、三保～田子の浦沖と、駿河湾奥部で形成された。平均単価は2,175円/kgと、依然高値で推移した。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	1日1か統当り (kg)	漁 場
平成15年5月 上旬	314	3	平均 1,745	由比～田子の浦沖
中旬	107	2	平均 895	富士川～沼津沖
下旬	338	5	平均 1,127	三保～田子の浦沖
平成15年5月 計	759	10	平均 1,266	-
平成14年5月 計	592	7	平均 1,410	由比～富士川、戸田沖
平成13年5月 計	918	12	平均 1,275	蒲原～大瀬崎沖

[サバたもすくい棒受網]

小川港に水揚げされたサバ類は前月の水揚量(626トン)の1.3倍の829トンで、マサバが0.1トン混じった。漁場は銭洲中心に形成された。棒受網漁船によって水揚げされたゴマサバの大きさは三宅島近海では22～27cm、銭洲では25～35cmのものが主体であった。前月に比べて水揚げされたゴマサバの魚体が小さいことなどから、1kg当たりの平均単価は60円と前月の半値以下となった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成15年 上旬	483	5	28	17.2	高瀬、銭洲、三本
5月 中旬	34	1	5	6.8	三宅、三本、新黒瀬
下旬	312	5	23	13.5	三宅、三本、銭洲
計	829	11	56	14.8	- - - - -
平成14年5月	1,076	17	102	10.5	三宅、三本、銭洲
平成13年5月	1,826	15	84	21.7	三宅、三本、銭洲、高瀬

[まき網]

静浦港では、マイワシは10.5トン水揚げされ、平年同期(過去5か年平均:9.3トン)の1.1倍と平

年並みであった。カタクチイワシは377.3トン水揚げされ好調であった。

伊東港では、マイワシは0.5トン水揚げされ低調であった。カタクチイワシは356.9トン水揚げされた。小川港では、マイワシは1.1トン水揚げされ、平年同期(過去5か年平均:29.3トン)の4%と低調であった。カタクチイワシは75.1トン水揚げされた。

[シラス船曳網]

1日1か統当り水揚量は、駿河湾で131kg、遠州灘で212kgだった。主要6港平均では190kgと前年同期(355kg)の54%、平年同期(過去5か年平均:405kg)の47%であった。5月の総水揚量は375トンと、前年同期(1,050トン)の36%、平年(1,106トン)の34%に過ぎず、好漁であった先月とは異なり不漁となった。特に5月中旬に水揚げの減少が目立ち、1日1か統当りの水揚げが100kg未満であった。平均単価は687円/kgと平年同期(605円/kg)に比べて高めに推移した。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量 (トン)	日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統/日)	平均単価 (円/kg)
新 居	45.3	17	266	170	805
舞 阪	172.3	17	685	252	603
福 田	70.3	13	320	220	616
御前崎	17.9	15	169	106	814
吉 田	41.8	14	347	121	836
静 岡	27.3	9	182	150	894
平成15年5月計	375.0	-	1,969	(平均)190	(平均)687
平成14年5月計	1,050.3	-	2,956	355	1,019
平成13年5月計	1,518.8	-	3,223	471	515

[調査船の動向]

- 富 士 丸
5月7～31日 東沖カツオ・ピンナガ調査(25日間)
- 駿 河 丸
5月6～8日 地先定点観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(3日間)
5月13～14日 駿河湾内にて静大の深層水調査(2日間)
5月19～20日 駿河湾内にて名古屋大の地殻変動計調査(2日間)
5月21～22日 天竜沖・御前崎沖・波勝崎沖にてマリンロボ調査(2日間)
5月26～27日 金洲の瀬、御前崎沖にてサバ標識放流調査(2日間)
5月29～30日 天竜沖・御前崎沖・波勝崎沖にてマリンロボ調査(2日間)